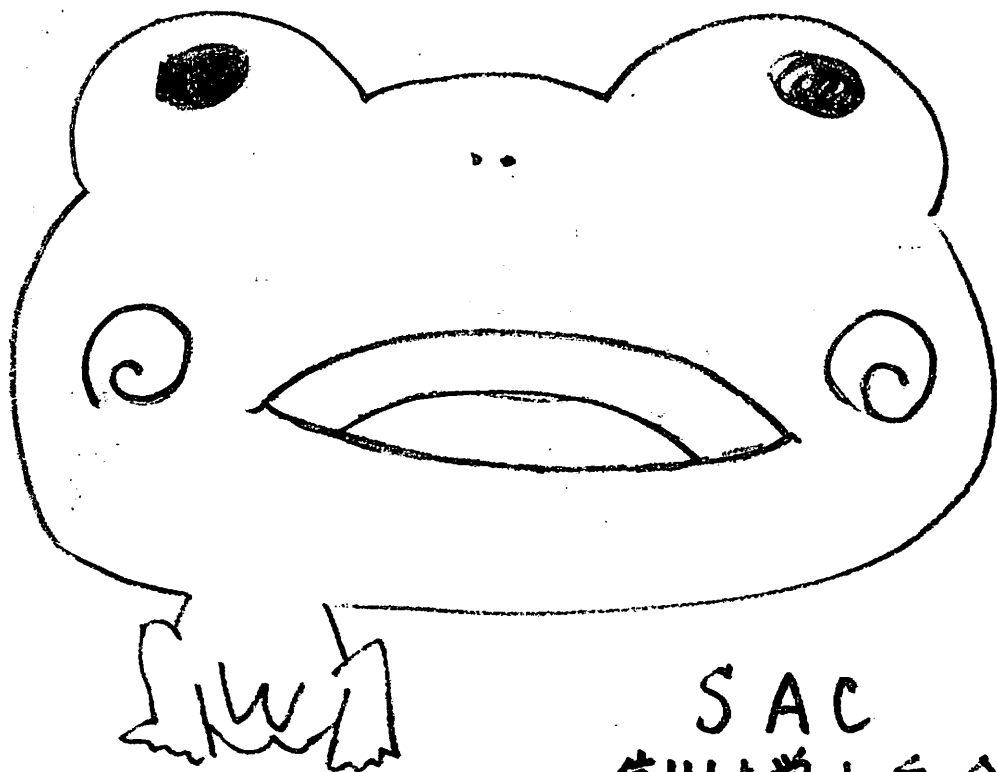


フシ 冬合宿

報告書

2003. 11. 29

遠見尾根<五竜岳>

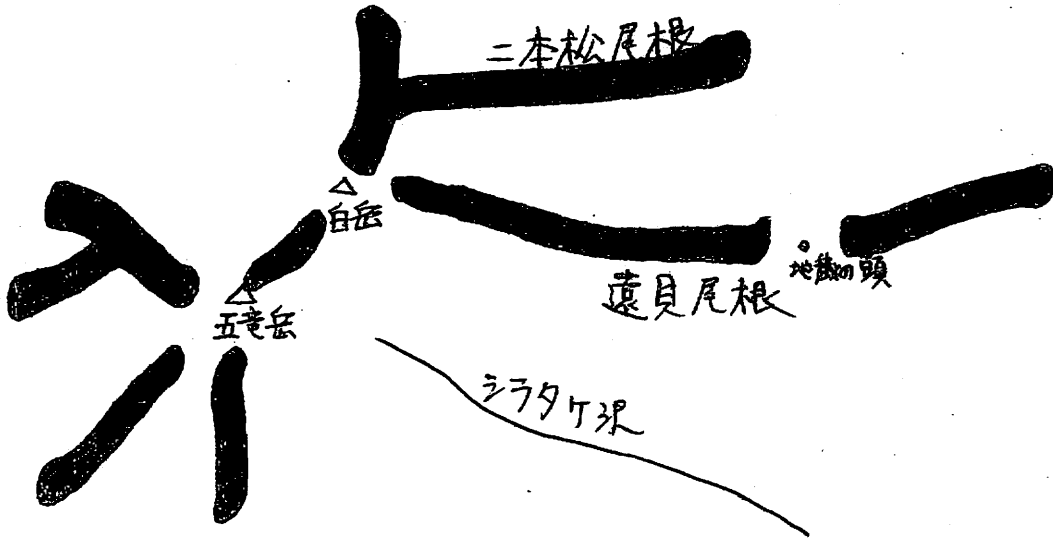


SAC
信州大学山岳会

山域：遠見尾根～五竜岳

メンバー：佐藤 祐樹(4) 小尾 智明(1)
片寄 哲生(3) 加藤 なゆ樹(1)
三森 武志(2) 高橋 昭彦(1) 畠中 洸(1)

山域概要：



行動記録

11月29日

5:00 BOX 集合	9:50 小遠見山
7:00 遠見駅	11:05 大遠見山
8:25 アルプス平	11:40 西遠見山 T. S 着

悪天への確信のみを抱えて遠見スキー場に到着。新谷さんの到着を待っていると出勤途中の小久保さんが差し入れを携えて登場。焼酎を頂く。しばらく雑談している内に新谷さんが到着。昨年に引き続き顔を利かせて頂いてゴンドラに乗り込んだ。

アルプス平に到着してみると予想通り雪は全くない。ゴンドラに乗っている最中も雪は全く見られなかった。型どおり体操、を済ませてからスパッツすら着けずに出発。

いつまで経っても雪は現れない。時折強い風が吹き付けて寒く感じるのは、心なしかペースが速くなって汗をかくためだ。地藏の頭で皆上着を脱ぐ。一昨年のプレ冬(遠見尾根)でも雪が少なかったが、今年は更に少ない。これならあつという間に予定テン場に着きそうだ。

小遠見山あたりから雪が見られ始めただろうか。と言ってもスパッツが必要な量ではなく、お構いなしに先を急ぐ。

予定していたテン場に到着。今後の悪天を知っている以上、敢えて今日五竜を目指す必要はないとして、足早にベースを完成させ、ビーコン訓練に移行した。

とりあえずマンツで開始する。ところが、どこも彼処も雪が少なく、ビーコンを隠す場所を見つけるのに一苦勞、埋めるのに二苦勞……。時折降ってくる小雨に打たれるため、ビーコンが濡れるのに気を配りながらの訓練となった。

最大で3個のビーコン搜索を試みてみた。しかし、雪が少ないのに加えて、遠見尾根は八方尾根と比べると訓練場所に相応しい面積に乏しいことから、春の雪訓で改めてバリエーションを組むことの必要を感じた。

最後に弱層テストの実演。と言ってもテストの要件を満たすだけの雪がなかったので型のみの実演となった。この頃から雨脚も強まってきており、テストが済むと同時におやつ作りを始めるべくテントに逃げ込んだ。

MSRの火が付いて暖まったのも束の間。この後間もなくしてテン場は近くの凍った池が融けて出来た水の流れのまんま中に設営されていたことが発覚。流れの最寄側に寝床を陣取った人物は、不快な一夜を過ごす羽目になった。

11月30日(日) 五竜ピストン

5:00 起床	11:05 五竜山荘
6:40 出発	12:35 西遠見 T. S
8:05 五竜山荘(FIX 隊先発、後続は 8:50 発)	14:05 中遠見山
10:05 五竜岳	15:30 アルプス平
	19:00 松本

昨夜ときおり強い風が吹いているのが聞こえていたので天気が心配されたが、起きてみるとさほどでもない。五竜山頂を目指すべく支度にかかる。

一応スパッツは着けたが、ワカン・アイゼンおそらくどちらも当面出番はなさそうだ。案の定、五竜山荘に至るまでほぼ夏道沿いでツボ足のままであったが、夏道を歩かざるを得ない分、中途半端にこびり付いている雪が多少いやらしい。白岳に至る尾根の末端部上に念のため所々赤旗を置きながら進んだ。

五竜山荘にて FIX 具の装着。FIX 隊として、佐藤・三森が先発。慣れないオーバー手での作業に例のごとく一年は FIX 具装着にてこずっている。予定時間を少々送って後発隊出発。

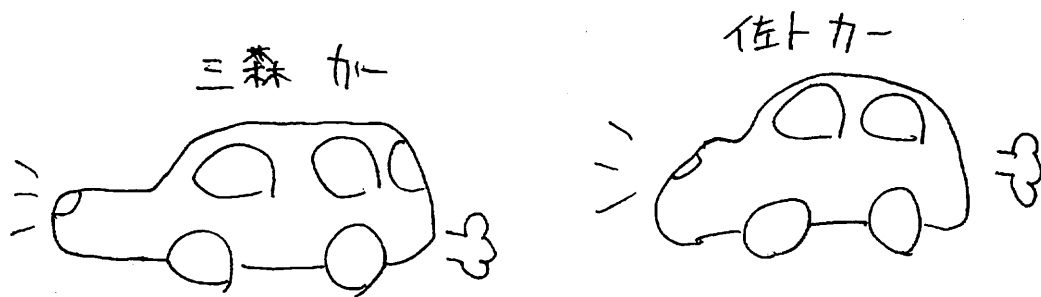
気温は高いけれども、横殴りの雨で早速ビショ濡れになったところへ西風が吹き付けてくるため結局寒い。山頂までの道のりも薄い雪がかかった夏道をトレースする。ちょうど一昨年の FIX 地点に近づいてきたかと思い始めた頃、前方から「アラヨ！」のコールが。佐藤さんだ。先頭を引き継いでもらって先を急ぐ。そのすぐ先で FIX 工作中的の三森の姿を確認。後発隊到着と同時に一人一人 FIX を通過する。通過後再び佐藤さんを先頭に進む。頂上直下の鎖場は避けて右側のルンゼ沿いを左上して頂上に出た。最後の平坦な岩歩きをこなして山頂到着。

登頂を喜ぶ雰囲気はどこにやら、むしろさっさと下山しようというムードが充満していた。というわけで総員一致で下山を決定。即下山を開始した。今度は、上りでまいて来た鎖場の方に進路を取った。前爪でのクライムダウンが必要な箇所もあったが、鎖がある上、立岩での岩トレに比べたらなんてことはない。先ほどのFIX箇所もなんなく通過してひたすら山荘を目指す。この頃には皆濡れに濡れた体のために末端部に冬独特の寒さを感じはじめていた。手を擦り足を擦りながら歩いてようやく山荘に到着。雨風をしのげてようやく一息つくことができた。

FIX 具をはずしてツボ足で下山再開。相変わらずの雨で、寒いのは変わらないがこれといって悪化していく様子もない。寒さを堪えつつ来た道をひたすら下った。まったく問題なし。テン場近くに差し掛かった頃には雨もやんできて、衣服も多少乾いた。

早速撤収に取り掛かり、軽く一服してから下山開始。昨日のビーコン搜索訓練跡地の雪が雨のために融けて、地面が露出している箇所すらあったのが印象に残る。

全く問題なくアルプス平に到着。ゴンドラに乗って駐車場まで下り、いつもどおり春寂寥を歌う。その後、新谷さんのお家へ移動して薪積みのお手伝いをした。薪積みを終えて、あとは一路松本へ。こうして今年のプレ冬が終わった。



7^a . y 7^a -

フシ冬合宿の反省・感想

一年 小尾 智明

フシ冬合宿は準備が万全ではなかった。
ワカンもできていなかったし、防水も完璧に
できてはいなかった。そのために片寄さんと
ルクさんには多大な迷惑をおかけしたこ
とを深く反省します。アセンもフウ靴に
合っていないことが発覚し、高谷さんに
アセンをお貸りして迷惑をおかけしたこ
とも反省します。準備は早め早めにお
うように心掛けたいと思います。

また、軍手のゴアが破れたり、フウ靴が
壊れたり、フウ靴のインナーを不注意で
ぬがしてしまったりした。また、オーバーシューズ
を装着したままにスリッパやアセン、ハーネ
スの着用などが、思わぬようにいかず、時間か
かかり、トラブルした。
これらのことが長期山行で起ったと

思うとゾッとある。死を意味する。
この山のことにもっと気を配って真重に
やっていくことが重要だと実感した。

また、生活面では、すばやく「バックク」ができな
かったり、せまいテントの中でとまとったりもした。
意識して、考えながら行動したいと思う。

行動面ではビーコン訓練ではとまどうことが多
かった。こんなことを雪崩が来たとき、てまかく
な行動をとれるのか。冬合宿までに完璧に
マスターある。またマゼン、ピッケルの扱いも
新人合宿の雪訓をもう一回復習し、冬合宿
には真重に歩みたい。体力のなげも痛感した。
日常生活が山に影響する。

日常から山を意識して、食事の準備等も
すばやく、てまかくに行う努力をした。
冬合宿まであと2週間。具合を山道し、
体力作り、筋力、山を意識した日常生活
にははげんでいきたいと思います。

以上。

プロシ合宿反省感想

加藤 千中樹

いよいよ、当会に入り初めての冬がやってきました。雪は舞い、白い気の塊が天地を覆いつくす。あらゆる生命が休眠という活動をかこない、山々には静けさというものが訪れる。その中を一隊の漢たちが突き進んでゆく。

果たしてこんな妄想が本来の冬山と近いのか否か、未だ自分には分からない。しかし、此度の合宿で冬期山行の一步を踏み込んだことは間違いないだろう。そして事実、此度の合宿において学びべき事が多々あったわけだ。また、その分反省すべき点も多かった。

特筆すべきは、一に「心構えが足らなかったこと」。いわゆる「準備」の面での事だ。二に、一を踏まえた上で、「実行力が足らなかったこと」。生活面で自立した遅れをとりました。セミで習った手順等を再度頭にたたき込めなければならない。そして第三に、十分な体力増強を

— Prologue —

高橋昭彦(農1)

私が山岳会の門を叩いた最大の理由は以下の2つのことがやりたかったからである。一つはアルパインクライミング。もう一つは冬山である。前者は先の夏合宿や谷川、生岩の岩トレ等で多少なりとも体験することができた。しかし冬山は正しく今回が初の山行であった。生憎の天气で雪は少なく山頂も風雨の中であつたが、それでも学ぶ所は多く今後の課題も見えてきた。

第1におろゆる行動が遅いということだ。これは慣れもあると思うが、物の装着等は下界でも十分に練習はしている。冬合宿は刻一刻と迫っているが、そうした日々の積み重ねを怠らないうにしたい。第2に体力であるが、着と較べ大部弱くなってしまっている。これは自分の急務な性格が原因であるが、僅かな時間でもトレニングに当てようというの、気持でいい。最後に最大の反省として読図と記録が思うようにできなかったことが挙げられる。特に読図は山に致命的であるので、例え悪天であつたとしても地図を見て頭に叩き込むようにしたい。記録についても同様である。

今のところ私はモノクロの世界、白と黒以外は何も無い虚ろな冬山しか知らない。しかしそこに如何に彩りを加えることができるのか。そして、彩りある冬山を見ることできるか。それはあらゆる登山行為に於けることだが、自分次第である。7月冬はほんの序章、これから私の長い冬山という名の夏は始まる。まずは冬合宿。これにはついていくだけの1年としては全く、隊の一員としての意識を先頭に置いた上で参加したい。まあ冬らしくは無いが、常念の向こうでは銀嶺が我々を待ち受けている。さあ、標に会いに行こうぜ。H.H.T.

反省感想 1年 畠中 洸

今回の合宿は期間は短かかったが、ショックは大きかった。どうしようという場面が幾度となくあった。最初にとまどったのはエッセンだった。やはり冬ということでは普段と手順が違う。なにをしたらいいのかわからなかった。次にオーバー手をつけた状態でのいろいろな作業。思った以上にヤリにくくて大苦戦した。さらにいえぼ寒さもショックだった。気温は高いはずなのに手袋がぬれていたり指先がマヒする。気温が例年通りだったから大変なところだ。

わからないことやできないことだらけの合宿だったが、冬合宿に向けて自分がやるべきことは少し見えた。また、ぬれの怖さも感じることができて良かったと思う。雪があまり積もってならず、本当の冬山というものがどんなものかイメージできないことが残念であり、冬合宿への不安要素であるけれど、不安な分楽しみでもある。

冬合宿は難関だろうが、かんはろうという気にさせてくれたこのフレ冬合宿は、自分にとっては大成功といえるだろう。

フシ冬合宿の反省・感想

三森 武志

今回フシ冬に行ってみて感じたのは、新人合宿みたいだ。ということだった。冬山での行動・生活、どれを取っても一年ははじめてのことが多かったらう。そんな中で上級生としてどういう風に動くかということが頭の中ではきりとしていなかった。それは例えば、知識不足であったり、まわりを見ていないということだったりした。今回はザリダーでもあったが、その役割も何だかあいまいにしか理解できなかった。ぶっちゃけ心に余裕がないのだらうと思う。一つ一つのことを丁寧に確実にこなしていけば自然につくものかとも思う。冬合宿に余剰な人材はいない。一人一人がしっかりとやらなければ最後まで行けないだらう。冬合宿は一年の総決算。悔しいよう頑張りたい。

フシ冬の反省・感想

佐藤 祐樹

いやあ、この時期の雨は寒い。山頂でも雨とはどういうことかね？ 今年の冬はどうなることやら...

今回、自分はクマリリーダーを離れ、黒子に散じた。闇の中からは今の山岳会の姿が良く見えまして非常におもしろい。たまに横槍を入れると感度良女子で最高であり、夕令に遊ばせてもらった。

またそれと同時に抜け目がいくつか見えてきた。また黒子・佐トの必要性を感じたことは残念であった。皆、次の冬合宿の山岳会を良く見て学んで欲しい。山岳会は例えて言うなら一つの家である。個人各々は柱である。どの柱がなくとも家は建つことはできない。

つまり、技術行方めん以前の話し、一人を抜きにして山頂に立とうと思わないし、全員で槍の山頂に立たなければ意味がない。それが会全員で山に登るといって『合宿』ではないか。合宿というものを最近はそのように考えている。

では冬合宿までのあと2週間、各人の柱をしっかりとするよう精進を期待している。

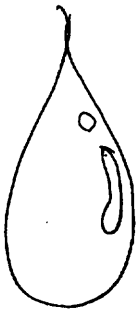
リーダーという立場で臨んだ初めての合宿。今まで見てきた先代らの姿を思いだしつつ挑戦してみた。実際やってみてどうだったか、今後の自分のためにも気づいた点を二つ列記してみる。

- ① それほどハードな状況が想定されない山行では、リーダーがすべき注意を払う他は特別することはない。2, 3年生に積極的に活動させるべきである
- ② 実際のリーダーの役目としては入山中というよりも、むしろ入山前の準備段階にその注意が必要とされる

今度の冬合宿には来年度のリーダーを見据えて臨むことになる。今回のプレ冬はそうした観点から冬合宿を迎えるためのポイントに気づけたようにも思う。過去の合宿においてサブリーダーをやっておきながら、これまでこうした視点を用意していなかったことは今年度最大の反省になってしまうかもしれない。

こうした反省はあるものの、今回は冬らしくない山でプレ冬合宿となった中で、その悪天候により冬らしい寒さを体感しつつ全員山頂に立てたことはやっぱりうれしい。ここ二年間のプレ冬であった反省(『あの天気で山頂立てなきゃ冬なんていけない』といった)は今年には必要ないだろう。もちろん今回の山もまだまだではあるが・・・。

冬合宿まで残すところあと2週間程度。万全の支度を整えて臨むべし!



係の

反省

と

感想



3. 装備の反省・感想

三森 武志

今回は例年みられないような雪の少なさで、あっても使えないような装備があった。入山前からわかっていたことなのに、対処せず、計画通りにもっていった。例えば「岩がかなり露出しているたろうからハーケンを多く持っていく等だ」。今度のプル冬ではそういった装備の柔軟性のなさを通感した。また、持っていった装備も、使っていて不備が生じるということがままたあった。そういうことのないよう早め早めに準備して、冬合宿には完全を期したいと思う。

4. 気象の反省・感想

予想通りの雨・雨・雨 & 風。こりゃ冬山じゃないと思ったが、いくら気温が高くとも濡れるとやはり寒い。なんだかんだ言っても結局は冬であるのにほとんど変わりはない。また幕営中にも浸水したりして、靴を濡らした者が多かった。もう少し防水に注意するよう呼びかけてもよかつたかもしれない。今年は暖かいから冬合宿で雨が降るのは、なきにしもあらずだ。防寒・防水対策をしっかりとしよう。

エッセンの反省・感想 担当・佐.

ユーマ君の(か)に(カ)の^カ私・佐がエッセンを担当いたしました。

私は今まで内に秘めていたエッセンに対する思いをすべてぶつけ
てやろう、つまりは改革にやろうとまくろんでおりました。そこ
でまずはエッセンに関して SACR 不足しているものを考えまし
た。以下。

- ① 水の不足
- ② カルシウム・ビタミンの不足
- ③ 夜の塩分摂取不足
- ④ ミニ一番の熱の不足
- ⑤ 乾物のうまい利用法

①に関しては片寄氏の医療セミナーでも話した通り、山での^{十分な}水分
摂取量は2.5~4Lにも及ぶ。現在我々の摂取量は2L
弱とやはり少ない。水をたくさん取るときの問題にみずのは
時間とガスである。しかし、この両方どちらをと、とも水もまた
重要なことは明白である。よって水分の摂取量を増やす
には、^{十分な}多少の時間とガスであって、早起きするなり、ガスの
量を増やす等だけで解決するのである。

②に関して、我々は個装として錠剤のみを頼ってきたが、
エッセンによる摂取も必要である。朝食後のお茶~~に~~、
ビタミン系飲料の日を入れる。また、おやつも有効に栄
養摂取とくに、なかなか摂取しにくいものを~~も~~摂取する場
として考えてみてはどうだろうか。スキムミルクはカルシウム

を多量に摂取される。シロ/221, ホ, ト/210, ゼ/171, ヲ
ヒ- など。スキムミルクは多種多採な使い方ができる。

③に関して我々は塩分摂取に関しての認識からおり。
現在、朝食のほとんどは乾ラーションで、これは多量の塩分が
含まれている。しかし、本来塩分は行動後の夜に摂取可
ることでその効果が発揮される。医学部教授の能勢
先生によると「塩コング」は塩分吸収率にすぐれ、効果的
に塩分を摂取できること。ゴリンにかけるふりかけと
してこの「塩コング」を大量に山にもち込んでみては？

④に関して、現在の我々は標高の差に関わらず、同じ量
のガス。つまり、同じ熱量しか摂取しておられぬ。標高
が上がれば当然気温も下がる。しかし我々は同じ
熱量しか摂取してしまふ。実に理にかなっていない。稜
線に上がればいつもと違わぬぬるいお茶。我々は
標高の差に応じてガスの増減を決めなければならない
ある。

⑤に関して我々は現在、せ、かくOB森田様からゆ
くり受けた乾物を活用されておらぬ。毎食、同じ
乾物を食べている。これはフランスパンをしょう油につけ
て食べているようなものである。飯に合わせた乾物を

入れ子ハサミである。魚肉(たゞと見ゆれ子)乾物はそのだし
がよく出て、鍋系によく合う。また、米にしろ油、大豆
、ひじき、等の乾物と一緒に作れば、五目ゴハンがで
まるとはいいか。乾物イチゴはヌクミシクとよく合
うといはいいか。物には相性がある。その点を考え
たい。

以上の①②を今回のエッセンに取り入れてみた。皆採
らうであらうか。改革は成功したとあるうか。改
革時には、それと抗ある力がある反抗勢力があるもの
があるか。皆も各自の意見、反対が賛成かを聞か
せて欲しい。そうしてやっと、よきエッセンが出来上がる
ものである。人生もしかし!!

ここ2年あまりエッセンの進歩を見ている。これは伝
統という名のものと急進である。変える音階は11から
でもあり、エッセンも日々精進。特に巻頭によい
てエッセンの持つ役割はあまりにも大きすぎる。そ
れからのエッセン隊長は精進と役割を胆に命じて
やってほしい。

以上をエッセンの熱きメッセージとして、お伝えして
いただきます。長々と失礼した。

~~お~~

会計

高谷 英太郎

収入 24000円

支出 食費13301円

装備 2877円

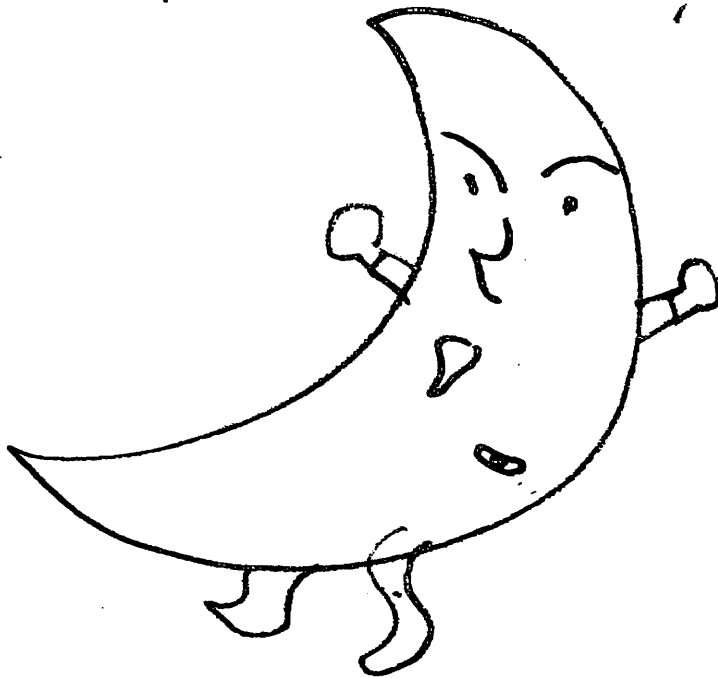
交通費 4000円

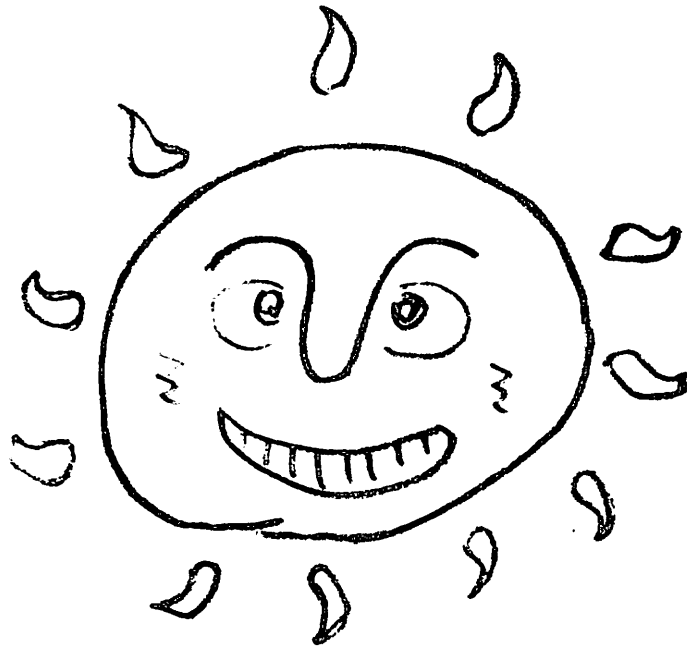
合計 20178円

+ 3822円

※ 残金は冬合宿へ

新谷さん ゴンドラの手配ありがとうございました。





S A C

印刷日... 12月10日

編集: 三森武志
表紙: 畠中洗